

官報

號外 昭和十二年七月二十九日

○第七十一回貴族院議事速記録第三號

昭和十二年七月二十八日(水曜日)午前十時二十八分開議

議事日程 第三號

昭和十二年七月二十八日

午前十時開議

第一 國務大臣ノ演說ニ關スル件(第一日)

第二 軍機保護法改正法律案(政府提出)

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四 兵役法中改正法律案(政府提出)

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六 裁判所構成法中改正法律案(政府提出)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第八 大正十年法律第百二號中改正法律案(政府提出)

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十 刑事訴訟法中改正法律案(政府提出)

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

懲罰委員會

委員長 侯爵大久保利武君
副委員長 男爵松岡 均平君

請願委員會

委員長 伯爵酒井 忠克君
副委員長 男爵近藤 滋彌君

決算委員會

委員長 男爵東久世秀雄君
副委員長 子爵片桐 貞央君

同政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律案
貿易組合法案
工業組合法中改正法律案
百貨店法案

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員仰付ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

第七十一回帝國議會司法省所管事務政府委員

司法省民事局長 大森 洪太君

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程ヲ變更致シマシテ日程第一ヲ最後ニ廻シ、日程第二及第四ヲ一括致シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二、軍機保護法改正法律案、日程第四、兵役法中改正法律案、政府提出、第一讀會、一宮政務次官

〔左ノ通牒文及法律案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ做フ〕

軍機保護法改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

軍機保護法改正法律案外一件 第一讀會

昭和十二年七月二十五日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
海軍大臣 米内 光政
司法大臣 鹽野 季彦
陸軍大臣 杉山 元

軍機保護法改正法律案

軍機保護法

第一條 本法ニ於テ軍事上ノ秘密ト稱スルハ作戰、用兵、動員、出師其ノ他軍事上秘密ヲ要スル事項又ハ圖書物件ヲ謂フ

前項ノ事項又ハ圖書物件ノ種類範圍ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ秘密ヲ公ニスル目的ヲ以テ又ハ之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄スル目的ヲ以テ前項ニ規定スル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三條 業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ四年以上ノ懲役ニ處ス

第四條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル

者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第五條 偶然ノ理由ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第六條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ、收集シ又ハ漏泄スルコトヲ目的トシテ團體ヲ組織シタル者又ハ其ノ團體ノ指導者タル任務ニ從事シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第七條 業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者過失ニ因リ之ヲ他人ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ左ニ掲グルモノニ付測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

一 軍港、要港又ハ防禦港
二 堡壘、砲臺、防備衛所其ノ他ノ國防ノ爲建設シタル防禦營造物

三 軍用艦船、軍用航空機若ハ兵器又ハ陸軍大臣若ハ海軍大臣所管ノ飛行場、電氣通信所、軍需品工場、軍需品貯藏所其ノ他ノ軍事施設

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ前條第一項ノ防禦營造物又ハ軍事施設ノ周圍ノ地域ニシテ陸軍大臣又ハ海軍大臣所管ノモノニ付區域ヲ定メ其ノ區域ニ付測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十條 許可ヲ得ズ若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ詐偽ノ方法ヲ以テ許可ヲ得テ第八條第一項第二號若ハ第三號ニ掲グルモノニシテ同條ノ禁止若ハ制限ニ係ルモノ又ハ前條第一項ノ區域ニ侵入シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第八條第一項又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反スル行爲ヨリ生ジタル圖書物件ヲ他人ニ交付シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ防空其ノ他國土防衛ノ爲軍事上ノ秘密保護ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ空域、土地又ハ水面ニ付區域ヲ定メ左ニ掲グル行爲ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

一 其ノ區域ニ於ケル航空

二 其ノ區域内ノ氣象ノ觀測又ハ其ノ區域内ノ水陸ノ形狀若ハ施設物ノ狀況ノ測量若ハ空中、高所ヨリノ撮影又ハ其ノ複寫若ハ複製

前項第一號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處シ同項第二號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一項第二號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反スル行爲ヨリ生ジタル圖書ヲ他人ニ交付シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ演習又ハ兵器實驗等ニ際シ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ演習又ハ實驗等ヲ行フ空域、土地又ハ水面及其ノ周圍ノ地域ニ付區域及期間ヲ定メ之ニ出入スルコトヲ一時禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ開港場以外ノ水面ニ付區域ヲ定メ外國船舶ノ之ニ出入スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ五年以下ノ懲役又ハ三百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ情狀重キトキハ其ノ船舶ヲ沒收ス

第十五條 第二條乃至第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十條、第十一條、第十二條第二項乃至第四項及第十三條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十六條 第二條乃至第五條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
第二條乃至第五條ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者亦前項ニ同ジ

第十七條 第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十條、第十一條、第十二條第二項乃至第四項又ハ第十三條第二項ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ得タル財物ハ犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限り之ヲ沒收ス其ノ財物ガ犯人以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第十九條 第二條乃至第五條、第七條、第八條第二項、第九條第二項、第十一條又ハ第十二條第二項乃至第四項ニ規定スル犯罪行爲(未遂罪ノ場合ヲ含ム)ヲ組成シタル物又ハ其ノ犯罪行爲ヨリ生ジタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハズ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒取スルコトヲ得

前項ノ沒取ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 第二條、第六條、第八條第二

項、第九條第二項、第十二條第二項、第十五條又ハ第十六條第一項ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス

第二十一條 第二條乃至第七條、第八條第二項、第九條第二項、第十一條、第十二條第二項乃至第四項及第十五條乃至前條ノ規定ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
刑法施行法第二十六條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一削除
兵役法中改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十二年七月二十五日

內閣總理大臣 公爵近衛 文麿
海軍大臣 米内 光政
陸軍大臣 杉山 元

兵役法中改正法律案
兵役法中左ノ通改正ス
第十九條ノ二 特ニ必要アルトキハ第十六條ニ規定スル未入營期間ノ外概ネ三月以内ノ未入營期間ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該期間ニ相當スル期間以内現役期間ヲ延長スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ豫備役期間ニ之ヲ通算ス

官報號外 昭和十二年七月二十九日 貴族院議事速記録第三號 軍機保護法改正法律案外一件 第一讀會

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員(宮房治郎君演壇ニ登ル)〕

○政府委員(宮房治郎君) 只今上程セラレマシタ軍機保護法改正法律案ノ提出理由ヲ簡單ニ説明申上ゲマス、軍事上ノ秘密ヲ保護スルコトハ、時ノ平戰ヲ問ハズ、國防衛上緊要ナルノミナラズ、特ニ有事ニ際シ敵ヲ奇襲スル所以デアリマシテ、戰勝ノ一大要因タルコトハ古今東西ヲ通ジテ不變ノ鐵則デアリマス、殊ニ近時ニ於ケル科學ノ進歩ト戰爭技術ノ變遷トハ、益々軍機ノ種類範圍ト之ガ保護ノ必要性トヲ増大スルニ至ラシメタノデアリマス、即チ各國ハ平時ヨリ多大ノ犠牲ヲ拂ツテ極秘裡ニ作戰、用兵、動員又ハ出師等ノ諸計畫、編制、裝備、教育、訓練、艦船、兵器等ヲ研究整備シテ、一朝有事ニ際シ有ラユル局面ニ於テ奇襲ノ效果ヲ得ルコトニ腐心シテ居リマスト共ニ、他面競ヒテ外國ノ軍事上ノ秘密ヲ諜知スル爲、膨大ナル組織ト巧妙ナル科學的手段トヲ以テシ、一片ノ秘密取得ニ數萬金ヲ惜マザルガ如キ實情デアリマシテ、最近ニ於ケル國際情勢ノ險惡化ニ伴ヒ、其ノ傾向益々甚ダシキヲ加ヘテ參リマシタ、然ルニ現行軍機保護法ハ約四十年前ノ制定ニ係リ、之ヲ以テシテハ到底現代ノ牒報戰ニ對應スルコト不可能トナツタ、バカリデナク、其ノ刑名、刑期等ハ舊刑法所定ノモノニ係ル等、不備缺陷多キヲ以テ、改正案ヲ第七十議會ニ提案シ、既ニ貴族院ニ於テハ其ノ可決スル所トナリ、衆議院ニ於テモ委員會ノ通過ヲ見タル次第デアリマスガ、議會解散ノ爲協賛ヲ得ルコトガ出来マセヌデシタノデ、本議會ニ提出致シマシタ次第デア

アリマス、何卒速カニ御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望致シマス

〔政府委員(加藤久米四郎君演壇ニ登ル)〕

○政府委員(加藤久米四郎君) 兵役法中改正法律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ヲ說明致シタイト存ジマス、現在陸軍ノ現役兵ハ種々ノ關係カラ致シマシテ、輜重兵、特務兵ノ如キ短期在營者ハ別ト致シマシテ、一般ノ者ハ十二月、一月及三月ニ區別致シマシテ入營スルコトニ致シテ居ルノデアリマス、現行兵役法ノ關係カラ致シマシテ、其ノ中十二月ト一月入營ノ者ノ現役ハ、十二月カラ始マリマシテ二箇年ニナツテ居リマス、三月入營ノ者ハ三月カラ始マツテ二年トナツテ居リマス、此ノ現役ノ始マリマスル時期即チ初期ニ差ガアリマスコトハ、其ノ者ガ豫備役、後備役ヲ含ム全服役ニ互リマシテ、其ノ服役及各年次ノ移リ變リ時期ニ差異ヲ生ズルノデアリマシテ、此ノ人員ガ多數ニ上リマシテ、特ニ其ノ數ガ漸次多クナリマスル關係上、其ノ取扱ガ頗ル複雑困難ニナツテ參ツタノデアリマス、而シテ此ノ取扱上ノ困難ハ、動員準備ノ上ニ多大ノ關係ヲ持ツテ居リマスルノデ、此ノ儘推移致シマスレバ動員部隊ノ素質ニ累ヲ及ボス虞ガ益々大トナツテ參ル状態デアリマス、ソコデ十二月又ハ一月ニ入營スル者モ、三月ニ入營致シマスル者モ、其ノ服役上ノ取扱ハ之ヲ一樣ニ致シマシテ、何レモ十二月カラ其ノ現役ガ始マリマシテ、從テ服役及各年次ノ移リ變リガ一樣ニ行ハレルヤウニ致シマシテ、動員準備上ニ缺陷ヲ生ゼシメナイヤウニ致シタイト存ズルノデアリマス、即チ三月ニ入營セシメマスル者ノ現役ノ始リヲ三月トスルコトヲナク致シマシテ、矢張

リ十二月ニ現役ニ就カシメマシテ、三月迄ノ間ハ之ヲ未入營期間トシテ置キ得ルヤウニ法律ノ改正ガ出来マスレバ、各人ノ義務負擔ハ殆ド影響ナク其ノ目的ヲ達シ得ルノデアリマス、今回本法律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ハ以上ノ通りデアリマス、慎重審議ノ上協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑モナイヤウデアリマスガ、日程第三及第五、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題ニ上リマシタ特別委員ノ選舉ニ付キマシテハ、本會期中特別ナ場合ヲ除キ其ノ數ヲ九名トシ、其ノ選舉ヲ總テ議長ニ一任スルコトニ致シタイ、且日程第二及第四ノ兩案ハ、頗ル重要ナ案デアリマスカラ、議長ニ於テ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ御指名アラムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

〔總員起立〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 全會一致ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

- 〔角倉書記官朗讀〕
- | | | |
|-------------------|----------|----------|
| 軍機保護法改正法律案外一件特別委員 | 公爵鷹司 信輔君 | 公爵島津 忠承君 |
| | 伯爵溝口 直亮君 | 子爵立花 種忠君 |
| | 子爵谷 儀一君 | 子爵井上 勝純君 |
| | 織田 萬君 | 三井清一郎君 |
| | 内田 重成君 | 男爵淺田 良逸君 |
| | 男爵渡邊 汀君 | 男爵園田 武彦君 |
| | 丸山 鶴吉君 | 大塚 惟精君 |

マシタル大正十年六月一日ニ於テ、判事又ハ檢事ノ本官ニ在職致シマシタ者ガ、其ノ後引續キ判事又ハ檢事トシテ在職致シテ居リマシテ、年限ノ年輪ニ達シマシタ後退官退職スル場合ニ於キマシテ、其ノ恩給年額ハ文官ノ普通恩給年額ニ百分ノ三十三ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ給與セラレルコトニナツテ居リマス、右年輪ニ達スル以前ニ於キマシテ退官又ハ退職ヲ致シマシタ者ハ、前述ノ増加恩給ヲ支給セラレナイノデアリマシテ、從テ右ノ資格ヲ有スル判事檢事ニシテ年限年輪ニ達スル前ニ退官又ハ退職致シマシテ、後進ニ途ヲ開クト云フコトモ出來ナイヤウナ状態ニナツテ居リマス、仍テ茲ニ本法ニ定ムル所ノ年輪ヲ低下致シマシテ滿六十年ト爲シ、前述ノ資格ヲ有スル判事檢事ガ其ノ年輪ニ達シマシタ後退官退職致シマシタ場合ニ於キマシテ、恩給年額ハ普通ノ恩給年額ニ百分ノ三十三ヲ加ヘマシタルモノヲ以テ給與スルコトニ致シマシテ、比較的高齡者ノ勇退ヲ圓滑ニ、新進有爲ノ者ノ進出ヲ容易ナラシメテ、以テ司法部内人事ノ刷新ヲ圖ラムトスルモノデアリマス、第三ハ刑事訴訟法中改正法律案デアリマスガ、此ノ刑事訴訟法ハ大正十三年一月一日カラ施行セラレタモノデアリマシテ、其ノ規定ニ依リマスルト、上告ノ理由ト致シマシテ法令違反ノ外一定ノ場合ニハ事實ノ認定及刑ノ量定ニ付キマシテモ之ヲ争フコトガ出來ルコトニナツタノデアリマス、而シテ事實ノ誤認又ハ刑ノ量定不當ヲ上告ノ理由トシタ場合、竝ニ事實ノ確定ニ影響ヲ及スベキ法令ノ違反ヲ上告ノ理由トシタ場合ニ於キマシテハ、上告裁判所ガ自ら事實ノ審理ヲ爲スベキモノト致シテ居ルノデアリマ

ス、處ガ上告裁判所ニ於キマスル事實ノ審理ノ情況ヲ見マスルト、上告裁判所ノ所在地ト被告人ノ住所ト、又ハ犯罪地トガ相隔タルコト遠イガ爲ニ、證人鑑定人等ノ訊問ノ爲ニ上告裁判所ニ其ノ出頭ヲ求メルニ致シマシテモ、亦上告裁判所ガ現場ニ出張シテ檢證ヲ爲スニ致シマシテモ、不便ナ場合ガ屢、生ズルノデアリマス、又事實ノ誤認及刑ノ量定不當ヲ理由トスル上告ニアリマシテハ、其ノ上告理由ガ頗ル多岐多様ニ互リマシテ、上告趣意書ニハ幾多ノ事實問題ガ巨細ニ掲ゲラレマシテ、浩瀚ナル上告趣意書ガ差出サレル傾向ニナツテ居ルノデアリマス、而シテ刑事訴訟法上、上告裁判所ノ判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ全部記載セバナラヌコトニナツテ居リマスノデ、上告裁判所ト致シマシテハ判決ヲ爲スニ當リマシテ、誠ニ必要以上ノ力ヲ用ヒテ居ルヤウナ實情デアリマス、仍テ茲ニ裁判所竝ニ訴訟關係人ノ便益ヲ考慮致シマシテ、上告裁判所ニ於ケル事實審理ノ、正當ナ改正ヲ加ヘムガ爲ニ本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、即チ改正ノ第二點ハ從來上告裁判所ガ自ら事實ノ審理ヲ爲サナケレバナラヌ場合ニ於キマシテモ、上告裁判所自ら事實ノ審理ヲ爲スコトガ適當デナイト思料シタ場合ニハ、原判決ヲ破棄シテ事件ヲ元ノ裁判所ニ差戻スカ、又ハ元ノ裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトガ出來ルヤウニ改メタイノデアリマス、改正ノ第二點ハ上告裁判所ガ判決書ヲ作成スルニ當リマシテ、事實問題ニ關スル上告ノ趣意ハ、其ノ一部ヲ判決書ニ記載スルコトヲ省略スルコトガ出來ルヤウニ改メタコトデアリマス、何卒以上述べマシタ上告

裁判所ノ實情ヲ御洞察下サイマシテ、御審議アラムコトヲ切望致スノデアリマス、以上ノ三ツノ改正法律案ハ、御承知ノ通り本年ノ春ノ議會ニ提出致シマシテ、何レモ御協賛ヲ得、又衆議院ニ於キマシテモ、殆ド通過ノ状態ニアツタノデアリマスルガ、遺憾ナガラ議事未了トシテ殘ツタノデゴザイマス、此ノ三案トモ目下司法部ノ事務ノ刷新ノ爲ニ、相當有效ナルモノトシテ立案セラレタノデゴザイマシテ、一面ニハ人事ノ刷新ノ爲ニ相當ノ效果ガアラウト考ヘラレマスルシ、又一面ニハ事務ノ負擔ノ過重ナル現狀ヲ緩和シテ、サウシテ事件ノ進捗ヲ迅速ナラシムルト云フ方面ニ效果ガアラウト考ヘラレル法案デゴザイマス、何卒慎重御審議ノ上ニ御協賛アラムコトヲ切望スル次第デゴザイマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御質疑ガゴザイマセスケレバ、三案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(角倉書記官朗讀)

裁判所構成法中改正法律案外二件特別委員

侯爵小村	捷治君	子爵豐岡	圭資君
子爵秋田	重季君	松井	茂君
山川	端夫君	男爵有地藤三郎君	
男爵周布	兼道君	小坂	順造君
下出	民義君		

異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、吉野商工大臣

貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律案

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

昭和十二年七月二十七日

内閣總理大臣	公爵近衛	文麿
外務大臣	廣田	弘毅
大藏大臣	賀屋	興宣
農林大臣	伯爵有馬	賴寧
商工大臣	吉野	信次

貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律案

第一條 政府ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ貿易審議會ノ議ヲ經テ期間及物品ヲ指定シ輸出又ハ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

一 貿易ニ關スル條約又ハ之ニ準ズベキモノニ依リ貿易ヲ調節セントスルトキ

二 國際收支ノ適合ヲ圖リ又ハ特定國トノ輸出及輸入ノ均衡ヲ圖ル爲貿易ヲ調節セントスルトキ

三 貿易業者ノ不當ナル競争ニ因リ輸出品又ハ輸入品ノ海外市場ニ於ケル價格ノ著シキ低落又ハ騰貴其ノ他貿易上ノ弊害ヲ生ジ又ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テ之ヲ矯正シ又ハ豫防セントスルトキ

四 國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲重要物資ノ供給ヲ適正ナラシメントスルトキ

第二條 政府ハ前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ヲシテ輸出品又ハ輸入品ニ付統制ヲ行ハシムル必要アリト認ムルトキハ統制協議會ヲシテ其ノ統制ニ關シ必要ナル重要事項ヲ調査審議セシムルコトヲ得

第三條 政府ハ輸出品又ハ輸入品ニ關スル統制ニ付輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ノ間ノ共同ノ利害ヲ調整スル爲必要アリト認ムルトキハ統制協議會ヲシテ其ノ調整ニ關シ必要ナル重要事項ヲ調査審議セシムルコトヲ得

第四條 政府ハ前二條ノ場合ニ於テ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ貿易審議會ノ議ヲ經テ輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ニ對シ統制協議會ノ議決シタル事項ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第五條 輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ニ定ムルモノノ外貿易審議會及統制協議會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限若ハ禁止、第二條ノ統制又ハ第三條ノ利害調整ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ

帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第八條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物品ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第九條 第四條ノ規定ニ依リテ爲ス違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第七條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依ル報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ、妨ガ若ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同シ

第十一條 輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條 本法ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此

ノ限ニ在ラズ

第十三條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第十四條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同シ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行後五年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ爲サレタル本法ニ依リ處罰セラルル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

貿易組合法案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十二年七月二十七日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
大藏大臣 賀屋 興宣
商工大臣 吉野 信次

貿易組合法案

第一章 貿易組合

第一節 總則

第一條 貿易組合ハ輸出組合及輸入組合ノ二種トス

第二條 貿易組合ハ貿易ノ振興ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

第三條 貿易組合ハ法人トス

第四條 貿易組合ハ其ノ名稱中ニ其ノ種類ニ從ヒ輸出組合又ハ輸入組合ナル文字ヲ用フベシ

貿易組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ輸出組合、輸入組合又ハ貿易組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條 主務大臣ハ本法ニ依リ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第六條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第七條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其實ノ生ジタル後二週間以内ニ之ヲ登記スベシ

登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第八條 非訟事件手續法第四百一十一條乃至第五百一十一條ノ六、第五百四十四條乃至第五百五十八條及第六百六十五條並ニ産業組合法第五條、第六條、第九十六條、第九十七條及第四百四條ノ規定ハ貿易組合ニ之ヲ準用ス

第二節 輸出組合

第九條 同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者又ハ同一市場ヲ目的トシテ商品ノ輸出ヲ業トスル者ハ輸出組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ取扱商品ヲ異ニスル重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第十條 同一又ハ重複スル地區ニ於テ二箇以上ノ同種ノ輸出組合ヲ設立スルコ

同種ノ輸出組合ハ其ノ名稱中ニ其ノ種類ニ從ヒ輸出組合又ハ輸入組合ナル文字ヲ用フベシ

貿易組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ輸出組合、輸入組合又ハ貿易組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

主務大臣ハ本法ニ依リ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

本法ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其實ノ生ジタル後二週間以内ニ之ヲ登記スベシ

登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

非訟事件手續法第四百一十一條乃至第五百一十一條ノ六、第五百四十四條乃至第五百五十八條及第六百六十五條並ニ産業組合法第五條、第六條、第九十六條、第九十七條及第四百四條ノ規定ハ貿易組合ニ之ヲ準用ス

同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者又ハ同一市場ヲ目的トシテ商品ノ輸出ヲ業トスル者ハ輸出組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ取扱商品ヲ異ニスル重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

同一又ハ重複スル地區ニ於テ二箇以上ノ同種ノ輸出組合ヲ設立スルコ

ト得ズ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 輸出組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ營業ニ關スル統制

二 組合員ノ取扱商品ノ委託輸出、輸出ノ斡旋、保管、選別、包裝、荷造

其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設

三 海外市場ノ調査、新販路ノ開拓其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ノ取扱商品ノ買取輸出、組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル營業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲グル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第十二條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ貿易ノ振興上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第十三條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第十四條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十五條 輸出組合定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ營業ニ關スル統制ヲ行フ場合同ニ於テハ總會ノ議決ヲ經テ之ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

其ノ規程ヲ變更セントスル場合亦同ジ

第十六條 輸出組合第十一條第一項第一號ノ事業ニ關スル定款ノ規定又ハ前條ノ規程ヲ定メ又ハ變更セントスル場合ニ於テ總會ノ可決セザリシトキト雖モ貿易ノ振興上組合員ノ營業ノ統制ヲ圖ル必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ總會ヲ開キ總會員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高ガ總會員ノ輸出高ノ三分ノ二以上ヲ占ムル組合員ノ同意ヲ以テ之ヲ議決スルコトヲ得但シ第九條第一項但書ノ規定ニ依リ設立シタル組合ニ在リテハ取扱商品毎ニ各總會員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高ガ總會員ノ輸出高ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十七條 輸出組合第十五條ノ規程ニ基キ組合又ハ組合員ノ輸出數量、輸出價格其ノ他命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ

主務大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十八條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ貿易ノ振興上特ニ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ノ組合員、其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ其ノ組合ノ組合員タル資格ヲ有セザル者ニシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ノ取扱商品ト同種ノ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノ若ハ其ノ組合ノ組合員ト同一市場ヲ目的トシテ商品ヲ販賣

ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十九條 前條ノ規定ニ依リ主務大臣輸出組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズル場合ニ於テ其ノ統制ニ從ヒ輸出スベキ商品ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ商品ガ其ノ統制ニ從ヒテ輸出セラルルモノナルコトニ付行政官廳ノ檢閲ヲ受クベシ

第二十條 主務大臣第十八條ノ規定ニ依リ輸出組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズル場合ニ於テ其ノ統制ニ從ヒ輸出スベキ商品ノ輸出ニ關シ取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保税地域内ニ於テ又ハ店舗、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ輸出組合ノ檢査員ヲシテ必要ナル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ當該官吏第十八條ノ規定ニ依リ命令又ハ前條ノ規定ニ違反シテ商品ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ヲ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第二十一條 同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者ヲ以テ設立セル輸出組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物産同業組合法ニ依リ同業組合ニ加入セズ又ハ之ヨリ脱退スルコトヲ得

第二十二條 輸出組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半数ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ但シ第九條第一項但書ノ場合ニ於テハ取扱商品毎ニ各組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半数ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハザルトキト雖モ特別ノ事由アル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第九條第一項但書ノ場合ニ於テハ取扱商品毎ニ各設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第二十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スベシ

第二十五條 輸出組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ第二十八條ノ規定ニ依リ輸出組合ニ在リテハ第七號乃至第九號、第四十五條ノ規定ニ依リ輸出組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ掲グル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所ノ所在地
- 五 組合員タル資格ニ關スル規定
- 六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
- 八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
- 九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
- 十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定
- 十一 專業及其ノ執行ニ關スル規定
- 十二 役員ニ關スル規定
- 十三 會議ニ關スル規定
- 十四 會計ニ關スル規定
- 十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
- 第二十六條 輸出組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第四十五條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス
- 第二十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ
- 組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得
- 第二十八條 第十一條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行ハザル輸出組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得
- 第二十九條 組合員ノ責任ハ第十三條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス
- 第三十條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ

依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額(保證金額)ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第三十一條 輸出組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ其ノ成立後二週間以内ニ之ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲グル事項並ニ第二十五條第七號ニ掲グル事項、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲グル事項並ニ第二十五條第七號及第十五號ニ掲グル事項ハ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

- 一 第二十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲グル事項
- 二 事務所
- 三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
- 四 第三十條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額
- 五 成立ノ年月日
- 六 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲グル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事ガ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間以内ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ招集スルコトヲ得

第三十三條 輸出組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第二十二條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第四十五條第一項ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第三十四條 第十一條第一項第一號ノ事業ヲ行フ輸出組合ニシテ全國ノ地區トスルモノ若ハ第十八條ノ規定ニ依ル命令アリタルモノ又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ノ理事ノ選任及解任ハ

主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ニ掲グル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第三十五條 組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エザル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第三十六條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ

第三十七條 經費ヲ組合員ニ分賦スル輸出組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算又分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ベシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スベシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スベシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條 組合員タル資格ヲ有スル者

輸出組合ニ加入セントスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ズ

第三十九條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ輸出組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

第四十條 検査ヲ行フ輸出組合ニ在リテハ検査員ヲ置クベシ

検査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十一條 輸出組合ハ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十二條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ輸出組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法、定款又ハ第十五條ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第四十四條 輸出組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 總會ノ決議ノ取消

二 役員ノ解任

三 事業ノ停止

四 解散

第四十五條 主務大臣貿易ノ統制ヲ圖リ

國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲トニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ輸出組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ輸出組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十七條 主務大臣第四十五條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ輸出組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク總會ヲ召集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ議決スベシ

第三十七條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ハ第十一條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第四十九條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者

ハ其ノ組合ノ組合員トス

第五十條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得ズ

第五十一條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十二條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ定款及創立總會又ハ總會ノ決議録ノ謄本、組合ノ設立アリタルコトヲ證スル書面、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並ニ理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニシテ主務大臣ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議録、出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面、第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニシテ主務大臣ノ處分ニ因ラズシテ成立シタルモノ又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

第五十三條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル

申請人ガ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セズ

出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ登記申請書ニハ前項ノ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述べタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第五十四條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事ガ清算人タラザル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

輸出組合ガ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スベシ

第五十五條 清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

第五十六條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條及第七十三條乃至第八十三條、非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第三百三十六條乃至第三百三十八條、第三百三十八條ノ三、第三百七十五條、第三百七十六條及第三百七十八條並ニ産業組合法第十條、

大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第七十一條 貿易組合ニ關スル規定ハ第十六條及第五十六條ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ外貿易組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十一條及第五十八條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トシ、第十八條中其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ノ取扱商品ト同種ノ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲ス者若ハ其ノ組合ノ組合員ト同一市場ヲ目的トシテ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲ス者トアルハ所屬ノ組合又ハ聯合會ニ非ズシテ所屬ノ組合又ハ聯合會タル資格ヲ有スル組合又ハ聯合會トシ、第三十四條及第六十一條中全國トアルハ道府縣ノ區域ヲ超ユル區域トス

第三章 貿易組合中央會

第七十二條 貿易組合中央會ハ貿易組合及貿易組合聯合會ノ普及、發達及聯絡ヲ圖ルヲ以テ目的トス
第七十三條 貿易組合中央會ハ法人トス
第七十四條 貿易組合中央會ハ其ノ名稱中ニ貿易組合中央會ナル文字ヲ用フベシ
貿易組合中央會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ貿易組合中央會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ
第七十五條 貿易組合中央會ハ全國ヲ通ジテ一箇トシ其ノ設立ハ主務大臣ノ認可

可ヲ受クベシ
中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十六條 貿易組合中央會ハ貿易組合又ハ貿易組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス
第七十七條 貿易組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 目的
二 名稱
三 事務所ノ所在地
四 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定
五 會員ノ權利義務ニ關スル規定
六 資産ニ關スル規定
七 事業及其ノ執行ニ關スル規定
八 役員ニ關スル規定
九 會議ニ關スル規定
十 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第七十八條 貿易組合中央會設立ノ認可アリタルトキハ其ノ事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ
登記スベキ事項左ノ如シ
一 前條第一號、第二號及第十號ニ掲グル事項
二 事務所
三 資産ノ總額
四 成立ノ年月日
五 理事及監事ノ氏名及住所
前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲グル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後二月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得
第七十九條 貿易組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クベシ

第八十條 貿易組合中央會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ會員タル貿易組合又ハ貿易組合聯合會ノ理事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ中央會設立當時ノ理事及監事ノ選任方法ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八十一條 第六條乃至第八條、第二十六條、第三十二條、第三十五條、第三十八條、第四十三條、第四十四條及第五十二條乃至第五十六條ノ規定ハ貿易組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第八條ノ規定ニ依リ準用シタル非訟事件手續法第四百四十一條並ニ第五十六條ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十七條第三項及第七十八條ノ規定ヲ除ク

第四章 罰則

第八十二條 左ノ場合ニ於テハ貿易組合、貿易組合聯合會又ハ貿易組合中央會ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
二 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ

又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
三 本法ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ
四 行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
五 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ檢査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ
六 本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ
七 本法ニ依リ事務所ニ備置クベキ書類ヲ備ヘザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ
八 本法ニ違反シテ組合員又ハ所屬ノ組合若ハ聯合會ノ持分ヲ拂戻シタルトキ
九 本法ニ違反シテ組合又ハ聯合會ガ組合員若ハ所屬ノ組合又ハ聯合會ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
十 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ
十一 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ脱退シタル組合員若ハ所屬ノ組合若ハ聯合會ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合若ハ聯合會ノ合併ヲ爲シタルトキ
十二 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
十三 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ財産ノ分配ヲ爲シ

タルトキ

十四 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十五 組合、聯合會又ハ中央會ノ目的ニ非ザル營利事業ヲ爲シタルトキ

第八十三條 第四條第二項、第六十六條第二項又ハ第七十四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第八十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第八十五條 第十八條ノ規定(第六十二條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者又ハ其ノ命令ニ違反シテ商品ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントシタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條ノ規定(第六十二條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シテ商品ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者亦前項ニ同ジ前二項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル商品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第八十六條 輸出又ハ輸入ヲ業トスル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八十七條 第八十五條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他

ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八十八條 正當ノ理由ナクシテ第二十二條ノ規定(第六十二條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル當該官吏ノ臨檢、檢査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 貿易組合又ハ貿易組合聯合會ノ證券若ハ檢査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證券若ハ檢査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證券若ハ檢査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 貿易組合又ハ貿易組合聯合會ノ理事、監事若ハ清算人又ハ檢査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第九十一條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十二條 第八十九條ニ掲グル罪ハ刑

法第三條ノ例ニ、第九十條ニ掲グル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

輸出組合法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リ設立セラレタル輸出組合又ハ輸出組合聯合會ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ輸出組合又ハ輸出組合聯合會ト看做ス

本法施行ノ際貿易組合、貿易組合聯合會又ハ貿易組合中央會ニ非ズシテ其ノ名稱中ニ輸出組合、輸入組合、貿易組合、輸出組合聯合會、輸入組合聯合會、輸出入組合聯合會、貿易組合聯合會又ハ貿易組合中央會ナル文字ヲ用フルモノハ本法施行後六月以內ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第八十三條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グルモノニ適用セズ

舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ設立ノ認可ヲ除クノ外本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十四條第一項(第七十一條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ該當スル輸

出組合又ハ輸出組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

本法施行前舊法ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍舊法ニ依リ

登錄稅法第十九條第七號中「輸出組合、輸出組合聯合會」ヲ「貿易組合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會」ニ、「輸出組合法」ヲ「貿易組合法」ニ改ム

印紙稅法第四條第一項第十一號中「輸出組合又ハ輸出組合聯合會」ヲ「貿易組合又ハ貿易組合聯合會」ニ改ム

商工組合中央金庫法中「輸出組合」ヲ「貿易組合」ニ、「輸出組合聯合會」ヲ「貿易組合聯合會」ニ改ム

工業組合法中改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十二年七月二十七日

內閣總理大臣 公爵近衛 文麿
商工大臣 吉野 信次

工業組合法中改正法律案

工業組合法中左ノ通改正ス

第一條 工業者ハ其ノ工業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第三條第二項中「資金ノ貸付」ノ下ニ「組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證」ヲ加フ

第四條 工業組合ハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フベシ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ工業組合ハ統制工業組合ナル文字ヲ用フベシ

工業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ工業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ統制工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條中「一部」ヲ削ル

第六條 工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課シ又ハ

其ノ違反ニ係ル工産品ニシテ違反者ノ所有スルモノニ付抑留其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ特ニ必要アルトキハ沒收ヲ爲スコトヲ得

第六條ノ二「行フ場合ニ於テハ」ノ下ニ「總會ノ議決ヲ經テ」ヲ加フ

第六條ノ三 工業組合前條ノ規程ニ基キ製造又ハ加工ノ數量、販賣價格、加工料金其ノ他命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ行政官廳ニ届出ツベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第七條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第八條中「又ハ矯正スル爲メ」ヲ「若ハ矯正スル爲メ又ハ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ」ニ改ム

第八條ノ二 前條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ工場、倉庫、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ工業組合ノ検査員ヲシテ必要ナル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ當該官吏前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ヲ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第八條ノ三 行政官廳第八條ノ規定ニ依ル命令ヲ遵守セシムル爲メ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ニ從フベキ者ニ對シ其ノ製造又ハ加工ノ設備ノ使用ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ製造又ハ加工ノ設備ニ付封印ヲ施シ、其ノ要部ヲ取外シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條第一項但書ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條ノ二 工業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十八條ノ三第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十六條 工業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ其ノ成立後二週間以内ニ之ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲ゲタル事項並ニ

第十五條第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

一 第十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項

二 事務所

三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四 第十八號ノ二ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ各組員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額

五 成立ノ年月日

六 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第二十條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

理事及監事ハ總會ニ於テ組員又ハ組員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第十二條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第二十八條ノ四第一項ノ場合ニ在リテハ組員タル資格ヲ有スル者又ハ組員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十條ノ二 第三條第一項第一號ノ事業ヲ行フ工業組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ第八條ノ規定ニ依ル命令アリタルモノ又ハ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ノ理事ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ニ掲ゲタル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十一條ノ二 組員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ組員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ

第二十二條第一項中「ノ一部」ヲ削リ第二十八條中「又ハ定款」ヲ「定款又ハ第六條ノ二ノ規程」ニ改ム

第二十八條ノ三 行政官廳當該工業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲メ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組員タル資格ヲ有スル者ニ對シ工業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者行政官廳ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ行政官廳ハ定

款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第二十八條ノ四 前條第一項ノ規定ニ依リ工業組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十八條ノ五 行政官廳第二十八條ノ三第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ工業組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ議決スベシ

第二十二條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第二十八條ノ六 第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ工業組合ハ第三條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第二十八條ノ七 第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ工業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第二十八條ノ八 第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ工業組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得ズ

第二十八條ノ九 第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ工業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十條中「設立セムトスルトキ」ノ下ニ「又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ準用シタル」ヲ加フ

ル第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキ」ヲ加フ

第三十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
前二項ノ規定ハ第三十三條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ工業組合聯合會ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十二條第一項中「又ハ所屬ノ工業者」ノ下ニ「若ハ所屬ノ工業者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員」ヲ加ヘ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十三條但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會、工業者及組合員トシ第二十條ノ二中全國トアルハ道府縣ノ區域ヲ超ユル區域トス

第三十四條第二項中「總會又ハ創立委員會ノ決議録」ヲ「又ハ總會ノ決議録ノ謄本、組合ノ設立アリタルコトヲ證スル書面」ニ改メ同項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ工業組合ニシテ行政官廳ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議録ノ謄本、出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添付スルコトヲ要セズ

第三十八條中「第三十五條乃至第三十七條」ヲ「第三十五條、第三十六條」ニ改メ「第四百條ノ規定」ノ下ニ「(第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ工業組合ニ付テハ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條第三號乃至第五號、第五十二條乃至第五十八條、第六十二條第一項第一號第三號、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ除ク)」ヲ加フ

第三十九條第三號ヲ第四號トシ以下順次繰下ゲ同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
三 本法ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ

第四十條中「第二項」ヲ「第二項(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第三項(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)」ニ改ム

第四十二條 第八條ノ規定(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

販賣ノ目的ヲ以テ前項ノ犯罪ニ係ル工業產品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケタル者亦前項ニ同ジ
前二項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル工業產品ヲ沒收スルコトヲ得
若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第四十二條ノ二 工業產品ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者方其ノ業務ニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十二條ノ三 第四十二條ノ罰則ハ其ノ者方法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條ノ四 正當ノ理由ナクシテ第八條ノ二ノ規定(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ當該官吏ノ臨檢検査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム
第五十二條第三項中「一月」ヲ「二月」ニ改ム

第五十五條中「第十九條」ノ下ニ「第二十一條」ヲ加ヘ但書中「第三十八條ノ二」ヲ削リ「及第七十七條第三項」ヲ「第七十七條第三項及第七十八條」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十條ノ二第一項(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ該當スル工業組合又ハ工業組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

附則
○國務大臣(吉野信次君) 只今議題トナリマシタ三ツノ法案ノ中、先ツ貿易及關係産業

者、雇人其ノ他ノ從業者方其ノ業務ニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第四十二條ノ三 第四十二條ノ罰則ハ其ノ者方法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第四十二條ノ四 正當ノ理由ナクシテ第八條ノ二ノ規定(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ當該官吏ノ臨檢検査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十三條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム
第五十二條第三項中「一月」ヲ「二月」ニ改ム
第五十五條中「第十九條」ノ下ニ「第二十一條」ヲ加ヘ但書中「第三十八條ノ二」ヲ削リ「及第七十七條第三項」ヲ「第七十七條第三項及第七十八條」ニ改ム
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十條ノ二第一項(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ該當スル工業組合又ハ工業組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

業調整ニ關スル法律案カラ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、我が國民經濟ノ發展ヲ期スル爲ニハ、貿易ノ伸張ヲ圖ルノ要アルコトハ申上グル迄モナイノデアリマシテ、幸ニシテ我が國ノ貿易ハ、數年來比較的好調ヲ續ケマシタコトハ御承知ノ通りデアリマスルガ

〔副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著ク〕

近時諸外國ノ我が國商品ニ對シマスル輸入防遏ノ措置ハ容易ニ緩和ヲ見ザル情勢ニアリノデアリマシテ、此ノ情勢ノ下ニ於キマシテ、我が貿易ノ維持發展ヲ圖ル爲ニハ、外ニ對シマシテハ相手國ノ各般ノ事態ニ臨ミマシテ、出來得ル限り是等ノ防遏ノ措置ヲ豫防若シクハ緩和スル爲ニ、敏速ニ有效適切ナル措置ヲ講ジ得ルノ準備ヲ整ヘテ置ク必要ガアルノデアリマス、更ニ現下ノ内外ノ情況ニ鑑ミマスルニ、生産力ノ擴充ヲ緊要トスルノ事情ニアリマシテ、之ガ爲相當必要ナル原料材料等ノ輸入ノ増大ヲ來タシ、國際收支ハ必ズシモ樂觀ヲ許サザルノ情勢ニアルノデアリマス、ソレ故ニ國際收支ノ適合ヲ圖ルノ要アルコトハ固ヨリ、重要物資ノ供給ヲ適正ナラシムルコトヲ必要トスルノデアリマス、是等ノ目的ヲ達成スルガ爲ニハ、輸出及輸入雙方ニ統制ヲ加フル必要ガアルノデアリマシテ、其ノ結果從テ關係産業ノ利害ノ調整ヲモ必要トスルノデアリマスルガ、政府ハ出來得ル限り是等ノコトヲヤリマスルノニ、關係業者ノ自治的ノ統制ニ依ルコトト致シタイノデアリマス、貿易ノ統制ヲ必要トスル場合、或ハ既ニ實施セル統制ニ付キマシテ、貿易ノ部門ト、國內産業ノ部門トノ間ノ利害ノ衝

突ガアル場合ニ於キマシテハ、關係業者ヲシテ自治的ニ、適當ナル統制又ハ利害調整ノ方策ヲ執ラシムルノ途ヲ圖ルコトニ致シタノデアリマス、若シ夫レ關係業者ニ於キマシテ、自治的ニ是等ノ方策ヲ實施シナイ場合ニ於キマシテハ、特ニ政府ニ於キマシテ必要ト認メマスル場合ニ於キマシテハ、權威アル審議機關ノ議ヲ經マシテ、關係業者一般ニ對シテ其ノ實施ヲ政府ニ於テ命ジ得ルノ途ヲモ開イタノデアリマス、尙近時ノ内外ノ經濟情勢ハ變轉極リナイノデアリマシテ、以上ノ如キ關係業者ノ自治的ノ統制ノ實施ヲ俟ツ暇ガナイ場合モアリマスルシ、又彼等ノ統制ヲ以テシテハ十分デナイ場合モ豫想セラレマスルノデ、斯カル場合ニハ政府ハ矢張り權威アル審議機關ノ議ヲ經マシテ、輸出輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲シ得ルノ途ヲモ開イタノデアリマス、是ガ貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法案デゴザイマシテ、固ヨリ現下ノ國際情勢ニ對處致シマスル臨時ノ措置デアリマスルカラ、其ノ有効期間モ五箇年間ト限定致シマシタ次第デアリマス、第二ニ貿易組合法案提案ノ理由ヲ御説明致シマス、政府ハ從來諸般ノ對策ト共ニ輸出組合制度ノ運用ニ依リマシテ、外國ノ情勢ニ應ジマシテ、或ハ輸出統制ヲ行ハシメ、或ハ海外市場ノ調査開拓等ノ共同事業ヲ行ハシメマシテ、輸出貿易ノ伸張ヲ圖ツテ參タクノデアリマス、併シナガラ輸出組合運用ノ實績ニ徴シマシテ、此ノ際輸出統制機構ヲ一層整備スル必要ヲ認メタノデアリマス、例ハバ窮迫セル海外情勢ニ對シテ、遲滞ナク輸出統制ヲ實施致シマスル爲ニハ、組合ノ任意ノ設立ヲ俟ツコトガ出來ナイヤウナ場合ガアリマスカラ、其ノ

場合ニハ政府ガ強制設立ヲ命ジ得ルモノトナスコトモ必要デアリマスルシ、又組合ノ統制ニ服スベキ範圍ヲ擴張致シマシテ、統制ニ間際ヲナカラシメルコトモ實際上必要ナノデアリマス、又他面輸入貿易ノ方面ニ付キマシテモ、原料國策乃至貿易調整等ノ見地カラ、輸入品ノ買付ヲ分散致シマシタリ、或ハ或國カラノ輸入ヲ制限スル爲ニ、輸入ノ統制ヲナサシムル必要ガアリマスノデ、新シク輸入組合ノ制度ヲ設ケマシテ、輸入貿易ヲ組織化スルコトト致シタノデアリマス、又自國ノ物産ノ買付ヲ要求スル中小貿易國ニ對シマシテハ、輸出組合ト輸入組合トヲ相提携セシメマシテ、其ノ國ノ物産ノ買付ヲ圖ラシムルト共ニ、販路開拓等ノ共同事業ヲモ行ハシムル必要モアルノデアリマス、尙輸出組合、輸入組合及是等組合ノ聯合會ノ普及及發達及連絡ヲ圖リマスル爲ニ、貿易組合中央會ヲ設クル必要ガアルノデアリマス、本法案ハ是等ノ目的ノ爲ニ立法致シマシタノデゴザイマシテ、從來ノ輸出組合法ハ之ヲ廢止スル積リデアリマス、最後ニ工業組合法中改正法律案ノコトヲ御話致シマス、我が國中小工業ノ現狀ヲ見マスルト、其ノ最大ノ缺陷ト致シマスル所ハ業界ノ無秩序、無統制ニ起因スル濫造濫賣ニアルノデアリマシテ、是ガ廳テ貿易ノ進展ヲ阻害スル所ガ大ナルモノガアルノデアリマス、此ノ弊害ハ工業組合制度ノ發達ニ依リマシテ、漸次改善サレツ、アルノデアリマスルガ、尙統制確保ノ方法ニ付キマシテ遺憾ノ點ガアリマスルカラ、之ガ整備ヲ圖ル必要ヲ認メタノデアリマス、殊ニ近時ノ國際貿易ノ情勢ニ依リマシテ、先ニ申シマシタヤウニ輸

出及輸入ノ統制ノ確立ヲ急務トスル事情ガアリマスルカラ、其ノ圓滑ナル實施ヲ圖リマスル爲ニハ、貿易ノ統制ト云フモノニ對應シテ、關係工業者ノ方面ニ於キマシテモ亦統制ヲ圖ル爲ニ、適當ナル組織ヲ必要ト致スノデアリマス、仍テ此ノ際工業組合法ノ適用範圍ヲ擴張致シマスルト共ニ、統制ヲ主トスル工業組合ノ制度ヲ新シク認メマシテ、工業組合ノ統制組織ノ擴充及統制確保ノ方法ヲ講ジ、同時ニ之ニ伴ツテ工業組合ニ對スル監督規定ヲ補フナド、工業組合制度ヲ整備致シマシテ、以テ現下ノ産業經濟ノ實勢ニ對應シテ、適切ナル統制ヲ圖ラムトスル次第デゴザイマス、此ノ以上三法案ハ、前ノ議會ニ提出ヲ致シタノデアリマスルガ、其ノ中貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律案ダケハ、其ノ後ノ情勢ノ變化ニ依リマシテ多少變更ヲ加ヘマシテ、今度新タニ提案ヲ致シマシタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協贊ヲ與ヘラレムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵戸澤正己君 只今上程サレマシタ貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律案外二件ハ重大ナル法案デアリマスガ故ニ、其ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、議長ニ於テ御指名アラムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ御動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔角倉書記官朗讀〕

貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律案外
二件特別委員

- 侯爵細川 護立君 侯爵徳川 義親君
- 伯爵山田 英夫君 子爵野村 益三君
- 子爵土岐 章君 子爵大岡 忠綱君
- 男爵飯田精太郎君 黒崎 定三君
- 男爵近藤 滋彌君 男爵杉溪 由言君
- 有賀 光豊君 次田大三郎君
- 稻畑勝太郎君 森 平兵衛君
- 出光 佐三君

○副議長(侯爵佐木行忠君) 日程第十
八、百貨店法案、政府提出、第一讀會、吉
野商工大臣

百貨店法案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十二年七月二十七日

- 内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
- 商工大臣 吉野 信次

百貨店法案

第一條 本法ニ於テ百貨店業者ト稱スル

ハ同一ノ店舗ニ於テ命令ヲ以テ定ムル
賣場面積ヲ有シ命令ノ定ムル所ニ依リ
衣食住ニ關スル多種類ノ商品ノ小賣業
ヲ營ム者ヲ謂フ

第二條 同一ノ建物ニ於テ二人以上ノ小

賣業者各命令ヲ以テ定ムル賣場面積ヲ
有シ相連繫シテ營業ヲ爲ス場合其ノ賣
場面積及販賣スル商品ガ相合シテ前條
ノ規定ニ依ル賣場面積及商品ノ種類ニ
該當スルトキハ各小賣業者ハ命令ノ定

第三條 百貨店業者ヲ營マントスル者ハ命

令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ
受クベシ

第四條 百貨店業者ハ左ノ場合ニ於テハ
命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可
ヲ受クベシ

- 一 支店、出張所其ノ他ノ店舗又ハ配
給所ヲ設置セントスルトキ
- 二 本店、支店、出張所其ノ他ノ店舗
ノ賣場面積ヲ擴張セントスルトキ
- 三 店舗以外ニ於テ小賣ヲ爲サントス
ルトキ

第五條 主務大臣必要アリト認ムルトキ
ハ前二條ノ許可ヲ爲スニ當リ之ニ制限
又ハ條件ヲ附スルトコトヲ得

第六條 百貨店業者ハ閉店時刻以後及休
業日ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ營業ノ範圍、閉店時刻及休業日
ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム

第七條 百貨店業者ハ其ノ統制ヲ圖リ小
賣業ノ圓滿ナル發達ヲ期スル爲主務大
臣ノ認可ヲ受ケ百貨店組合ヲ設立スル
コトヲ得

第八條 百貨店業者百貨店組合ヲ設立セ
ザル場合ニ於テ主務大臣必要アリト認
ムルトキハ百貨店業者ニ對シ百貨店組
合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル
者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ
認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定
款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處
分ヲ爲スコトヲ得

第九條 百貨店組合ハ法人トス

百貨店組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 百貨店組合ハ左ノ事業ヲ行フコ

- 一 組合員ノ營業ニ關スル統制
- 二 組合員ノ營業ニ關スル指導
- 三 小賣業ニ關スル研究又ハ調査
- 四 其ノ他組合ノ目的達成上必要ナル
事業

第十一條 百貨店組合ハ設立ノ認可アリ
タル時又ハ第八條第二項ノ規定ニ依リ
定款ノ作成アリタル時成立ス

百貨店組合ノ設立アリタルトキハ各事
務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲ス
ベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタ
ルトキ亦同ジ

百貨店組合ノ設立又ハ登記シタル事項
ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之
ヲ以テ第三者ニ對抗スルトコトヲ得ズ

第十二條 百貨店組合ハ全國ヲ通ジテ一
箇トシ組合ノ設立アリタルトキハ百貨
店業者ハ其ノ組合員トス

第十三條 百貨店組合ハ第十條第一號ノ
事業ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規
程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ其
ノ規程ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十四條 主務大臣小賣業ノ圓滿ナル發
達ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認
ムルトキハ前條ノ規程ノ全部又ハ一部
ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十五條 主務大臣小賣業ノ圓滿ナル發
達ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認
ムルトキハ百貨店組合ニ對シ組合員ノ
營業ノ統制ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズ
ルトコトヲ得

第十六條 主務大臣小賣業ノ圓滿ナル發
達ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認
ムルトキハ百貨店組合ノ組合員ニ對シ

組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコ
トヲ得

第十七條 行政官廳ハ百貨店業者又ハ百
貨店組合ニ對シ其ノ業務ニ關シ報告ヲ
爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ
發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキ
ハ當該官吏ヲシテ百貨店業者又ハ百貨
店組合ノ店舗、事務所其ノ他ノ場所ニ
臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他
ノ物件ヲ檢査セシムルトコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯
セシムベシ

第十八條 百貨店業者本法若ハ本法ニ基
キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處
分ニ違反シ又ハ第五條ノ規定ニ依リ許
可ニ附シタル制限若ハ條件ニ違反シタ
ルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ法
人ノ役員ノ解任ヲ爲シ又ハ第三條若ハ

第四條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十九條 百貨店組合ノ決議又ハ組合ノ
役員ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳
ノ處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害
シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ
主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 決議ノ取消
- 二 役員ノ解任
- 三 組合ノ事業ノ停止
- 四 組合ノ解散

第二十條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ
外百貨店組合ノ設立、登記、管理、解
散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事
項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 第十四條乃至第十六條ノ規
定ニ依ル命令又ハ處分其ノ他本法施行

ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ゼシムル爲百貨店委員會ヲ置ク百貨店委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 第三條ノ規定ニ違反シ主務大臣ノ許可ヲ受ケズシテ百貨店業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタベキ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタル者

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第六條ノ規定ニ違反シテ營業ヲ爲シタル者

二 正當ノ事由ナクシテ第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者

第二十五條 百貨店業者又ハ百貨店組合ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成業者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定

代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ營業ヲ爲ス百貨店業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

(國務大臣吉野信次君演壇ニ登ル)

○國務大臣(吉野信次君) 百貨店法案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、我が國ノ中小商業者ノ更生振興ヲ圖ルコトガ現下ノ急務トナシテ居ルコトハ申ス迄モナイノデアリマス、固ヨリ中小商業者窮迫ノ原因ハ色々アルノデアリマシテ、一部分ノ原因ハ彼等自身ノ經營上ノ缺陷ニ基ク所モアルノデアリマスルガ、又一面大規模經營ニ依ル百貨店ノ進出ノ結果、相當大ナル影響ヲ受ケテ居ルコトモ否定スルコトガ出來ナイ事實デアリマス、尤モ百貨店ハ其ノ大ナル資本信用ト近代ノ組織經營トニ依リマシテ、小賣制度ノ合理化ニ貢獻シ、消費者ニ利便ヲ與ヘテ居ルコトハ申ス迄モナイノデアリマス、併シ何ト申シテモ其ノ急激ナル進出ハ、一般中小商業者ニ尠カラザル影響ヲ及シテ居ルノデアリマス、之ガ爲ニ政府ハ曩ニ日本百貨店商業組合ヲ組織致サセマシテ、其ノ營業統制規程ニ基キマシテ、政府

ノ監督ノ下ニ彼等ノ營業ニ關シマシテ各種ノ制限ヲ實施致サセ、一般中小商業者トノ利害ノ調整ヲ圖ラシムルコトニ努メテ參ッ

タノデアリマス、然ルニ最近ニ於キマシテ百貨店ノ新設又ハ擴張ガ相踵イデ行ハレマシテ、百貨店同志ノ競争ヲモ惹起スルヤウナ次第ニナツテ參リマシテ、其ノ弊ノ及ブ所ガ百貨店ノ配給機關トシテノ作用ヲ損フ

ノデハナイカト云フヤウナ虞モ段々アルヤウニナツテ參リマシテ、從來ノ商業組合ダケデハ小賣商業ノ保護ノ目的ヲ十分達シ難イ状態ニ立到ツタノデアリマス、ソ

コデ新クニ百貨店法ヲ制定致シマシテ、百貨店ノ新設擴張並ニ其ノ營業ニ適切ナル統制ヲ加ヘマシテ、百貨店相互ノ不當ナル競争ヲ排除致シマスルト共ニ、百貨店ト中小商業者トノ關係ヲ調整致シマシテ、小賣業

全般ノ圓滿ナル發達ヲ期シタイ、斯ウ存ジマシテ茲ニ本法案ヲ提出致シマシテ次第デゴザイマス、何卒十分御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵澤正巳君 只今上程ニナリマシタ百貨店法案ハ、是亦重要ナル法案デゴザイマスルガ故ニ、其ノ委員ヲ十五名トシ、議長ニ於テ指名アラムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 賛成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戶澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(角倉書記官朗讀)

百貨店法案特別委員
公爵岩倉 具榮君 侯爵中御門經恭君
伯爵樺山 愛輔君 子爵秋元 春朝君
子爵西尾 忠方君 男爵岩倉 道俱君
男爵三須 精一君 男爵松田 正之君
藤沼 庄平君 松本 學君
菊池 恭三君 下出 民義君
佐々木八十八君 絲原武太郎君
小野 耕一君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第一、國務大臣ノ演說ニ關スル件、近衛内閣總理大臣

(國務大臣公爵近衛文麿君演壇ニ登ル)

○國務大臣(公爵近衛文麿君) 昨日松井君ヨリ、私ガ施政演說ノ中ニ於キマシテ申述ベマシタ社會正義並ニ國際正義ト云フ言葉ニ付キマシテノ意味ヲ御尋ニナリマシタ、私

ノ申シマシタ社會正義ト云フ意味ハ、國民ノ悉クガ各、其ノ處ヲ得テ、國家全體ノ利益ノ爲ニ其ノ責ヲ盡ス、各人ガ公平ニ其ノ要求ヲ充サレ得ルヤウナ状態ヲ指シテ申シ

タノデアリマス、明治元年ニ 明治天皇ノ御宸翰ノ中ニ、「天下億兆一人モ其處ヲ得サル時ハ皆朕カ罪ナレハ」云々ト云フ御言葉ガアリマス、國民全體ヲシテ各、其ノ處ヲ得

シムルト云フコトハ即チ 陛下ノ至仁至大ナル御聖德ヲ天下ニ洽カラシムル所以デア

ツテ、即チ社會正義ヲ實現スルト云フコトハ我が國體ノ精華ヲ發揚スルコトニナルト

考ヘテ居リマス、次ニ國際正義ト申シマシ

ク意味ハ、是モ國際間ニ於ケル公平ナル状態ト云フ意味デ申シタノデアリマス、領土

或ハ資源ニ付テ不公平ナル状態ノ存在スルコトガ即チ世界不安ノ原因デアリ、戰爭ノ

原因ニモナルノデアリマス、世界國際正義ヲ實現スルト云フコトガナケレバ眞ノ平和ヲ確立スルコトハ出來ナイノデアリマス、國際正義ノ實現ト云フコトハ、是ハ徹底的ニ申セバ世界ノ領土資源ノ合理的ノ再分割ト云フ所迄行カナケレバ無論徹底シナイノデアリマス、斯クノ如キコトハ今日ノ時代ニ於テハ勿論空想デアアル、併シナガラ少クモ人ト物トノ移動ノ自由ト云フコトヲ認メナケレバ國際正義ト云フコトハ茲ニ現レテ來ナイノデアリマス、此ノ主張ハ我が政府ト致シマシテモ、常ニ機會アル毎ニ國際會議等ニ於テ主張致シテ居ルコトデアリマシテ、現ニ國際聯盟ニ於テモ原料調査委員會ニ於テ我が代表ガ其ノ主張ヲ致シテ居ルノデアリマス、私ノ國際正義ト申シマシテ意味ハ斯クノ意味デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 馬場内務大臣

(國務大臣馬場鐵一君演壇ニ登ル)

○國務大臣(馬場鐵一君) 昨日ノ松井博士ヨリノ御質問ニ御答ヲ申上ゲマス、其ノ第一ハ地方官ノ在職年限ヲ三年又ハ四年ト云フ工合ニ法制化シタラドウカト云フヤウナ大體ノ御趣旨ハソコニアルト思フノデアリマス、適材ヲ地方官ニ任命致シマシテ其ノ地方ノ事情ニ精通致シテ、地方行政ノ任ヲ全ウスルガ爲ニ、成ルベク長イ期間在職致シマスト云フコトハ誠ニ理想デアリマス、私モ出來ルダケサウ云フヲ以テ現ニ人事ヲ按排致シテ居ルノデアリマス、併シナガラ色々ノ事情モソコニワイテ參リマスルシ、地方々々ニ於ケル特殊ノ事情ガアルノミナラズ、諸般ノ事情モ自然ニ起ツテ參リマシ

テ、三年トカ四年トカニ釘付ケニ法制化スルト云フコトハ如何ナモノデアラウカ、サウ云フ大體ノ理想ヲ以テ乃至サウ云フ考ヘ方ラシテ、地方官ヲ成ルベク長ク地方ニ置カシムルト云フ、斯ウ云フ方針デ進シテ參ルノニ止メテ置イテハ如何カ、即チ法制化スルト云フコトニ付テハモウ少シ考テ致シテ參ラナケレバナラヌダラウト思ヒマス、併シ大體ノ御考方ハ是ハ私ハ全然御同感デアリマス、ソレカラ警察官ノ問題竝ニ消防機關ノ問題ニ對スル御所見ニ付テハ、大體ニ於テ全然同感デアリマス、松井博士ハ其ノ方面ニ關スル權威者トシテ從來屢、御所見ヲ伺ツテ居リマスシ、政府ニ對シテモ誠ニ適切ナ御建言モアリマシテ、私共敬意ヲ表シテ居ル次第デアリマスルガ、今日ノ警官ノ殊ニ教養問題ト云フコトニ付キマシテハ私、就職以來切實ニ感ジテ居ルノデアリマス、凡ソ總テノ事ハ人ニ存スルニ相違ゴザンセヌガ、無論總テノ行政ニ付テモ人ハ中心ニ相違ゴザンセヌケレドモ、此ノ警察ノ如キハ殊ニソレデアラウカト思フノデアリマス、固ヨリ組織ナリ法制ナリモ大切デアリマスルガ、警察ノコトハ自由裁量ノ範圍ノ殊ニ廣イモノデアリマシテ、此ノ警察官其ノ人ヲ得ルト云フコトガ殆ド警察中心ノ考デアリマス、今日迄ハ始終此ノ人權蹂躪ナドノ問題ガ起リ、其ノ他ノ警察ニ對スル非難ノアリマスコトハ、確ニマダ今日ノ警察官ノ教養修練或ハ指導監督ニ付テ足ラザル點ガ相當アルノデアラウト思フノデアリマス、政府ニ於キマシテモ最近其ノ方面ニ相當ノ注意ヲ加ヘテ、多少ノ豫算ノ増加ヲ見タヤウナ次第モアリマスルガ、コンナコトデハナカナカ不十分デアラウト思ヒマス、昨日ノ

御所論ヲ伺ヒマシテ、全ク私ハ今後ノ警察官ノ教養殊ニ時代認識ト申シマスカ、時局認識ト申シマスカ、斯ウ云フコトニ付テハ、相當徹底ノ方法ヲ執ラネバナラヌト深く信ズルノデアリマス、其意味ニ於テ、今後此ノ警察官ノ教養問題ニ付テハ十分力ヲ注ギタイト思ヒマス、ソレカラ防空法ト消防ノ關係、是モ誠ニ御説御尤デゴザイマス、殊ニ我が國ノ建築物ノ特異性カラ考ヘマシテモ、防空ノ上ニ付テハ消防機關ノ整備或ハ此ノ消防ノ何ト申シマスカ、施設其ノ他ニ付テハ相當ノ力ヲ今後用ヒナケレバナラヌト思ヒマス、來年防空法ノ實施ニ伴ヒマシテ種々ノ今施設準備ヲ致シテ居リマス、此ノ場合ニ此ノ消防機關ニ付テノ問題ハ可ナリ力ヲ入レテ是ハ致シテ參ラナケレバナラヌト思ヒマス、此ノ點ニ付テモ政府ノ財政ノ許サル、限りニ於テハ十分ナル考方ヲ以テ之ニ臨ンデ行キタイ、斯ウ云フコトニ今考ヘテ居リマスルカラ左様御諒承ヲ願ヒマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 賀屋大藏大臣

(國務大臣賀屋興宣君演壇ニ登ル)

○國務大臣(賀屋興宣君) 昨日ノ松井サンノ御質問ニ對シマシテ、御答ヘ申上ゲマス、社會事業、就中社會教化ニ關スル事業、警察官ノ教育ニ關スルコト、防空竝ニ火災消防ニ關シテ、私ガ如何ナル考ヲ持ツテ居ルカ、斯様ノ御質問デアッタト存ジマス、社會教化事業ニ關シマシテ、松井サンノ御述ニナリマシタ御趣旨ハ、私ハ最も適切ナル御考デアルト存ジテ居リマス、家庭特ニ家長ノ教育、家庭カラ推シ擴メマシテ、部落、町村ニ及ンデ基礎ノ固イ社會教化ノ歩ヲ進メルト云

フ御考ハ、誠ニ適切ナル御考ト存ジテ居リマス、之ニ付キマシテハソレニ當ラレル民間ノ當事者ノ熱誠ト、妥當適正ナル御意見ニ依リマシテ是ガ行ハレマスルコトガ、最も要諦デアルト考ヘテ居ル次第デアリマス、又警察官ノ教育、防空、火災消防ニ關シマシテハ、松井サンノ御述ニナリマシタコト、只今内務大臣ヨリ御答ノアリマシタコトハ、大體私モ執レモ同感ニ存ジテ居ル所デゴザイマス、尙私ノ所管ニ付キマシテ、是等ノ問題ノ關係ト致シマシテハ、豫算ニ計上致シマスル經費ノ點デアリマスルガ、孰レノ問題ニ致シマシテモ、今日迄出來得ル限りノコトハ致シテ居ル積リデアリマス、併シナガラ御承知ノ如キ財政ノ状態デアリマスノデ、是等ノ事柄ニ熱心ニ御從事ニナツテ居リマスル方々カラ見マスレバ、嚙不十分デアルト云フ御不滿ノ思ヒモオアリニナルカト存ジマスルガ、今後財政ノ許シマス限り、是等ノ方面ニ努力シテ行キタイ、斯様ニ私モ考ヘテ居リマス次第デゴザイマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 内ヶ崎文部政務次官

(政府委員内ヶ崎作三郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(内ヶ崎作三郎君) 今日ハ文部大臣ガ差支ガゴザイマスノデ、私ヨリ代ッテ松井博士ノ御質問ニ對シテ御答辯ヲ申上ゲマス、松井博士ノ第一ノ御質問ハ、從來青少年教育ニ比シテ、成人教育ハ多少ノ遜色ガアルデナイカト云フコトニ關スルノデアリマス、ソレニ對シテ御答ヲ致シマス、成人教育ガ青少年教育ト相並ンデ重要ナルコトハ、固ヨリ申上ゲモナイノデアリマス、文部省ト致シマシテハ、從來成人教育ニ關

スル諸講座ノ開設ヨリ、或ハ又公民教育ヤ時局對策等ノ講演、講習、協議會等ノ開催ニ依リ、成人教育ノ進展ヲ圖ツテ參シテアリマスガ、今後ハ時局ニ鑑ミ、更ニ一層其ノ擴充徹底ニ努メタイト存ジテ居ルノデゴザイマス、第二ノ御質問ハ家庭教育振興ニ關スルモノデゴザイマス、ソレニ對シテ御答ヘ致シマス、家庭ハ一國一村一部落ノ共同生活ノ基本ノ單位デアリマスカラ、我方國風ニ基キ一層家庭教育ノ振興ニ力ヲ致スベキコトハ最モ肝要ナルコトト存ズルノデゴザイマス、固ヨリ家庭教育ノ振作ニハ、先ヅ學校ニ於ケル女子教育ノ刷新振興ヲ圖ルノ要アルコトハ申ス迄モナイコトデアリマスガ、他面學校教育ニノミ依頼スル弊ヲ矯メテ、家庭ト學校トノ連絡ヲ一層密接ナラシムルコトガ肝要デアルト存ジマス、從來トテモ文部省ト致シマシテハ家庭教育ニ關スル諸講座ヲ開設スル等、此ノ教育ノ爲努力シ來ツタノデゴザイマスルガ、將來ハ尙一層此ノ方面ニ力ヲ盡シタイト存ジテ居ルノデゴザイマス、第三ノ御質問ハ部落ノ中心トスル教化振興ニ關スル問題デゴザイマス、之ニ對シテ御答ヘ致シマス、部落ノ生活ハ家庭生活ノ上ニ立ツ共同生活ノ單位デアリマスルカラ、部落ヲ中心トスル教化ノ徹底、即チ部落教化ノ如キ事業ハ益、之ヲ獎勵シ、斯クテ家庭、部落、地方自治體、國全體ト眞ニ内面カラ盛上リ來ル力ヲ養フコトハ最モ緊要ナルコトト思ヒマス、尙既ニ市町村内ニ於ケル社會教化網モ漸次整備シツ、アル狀況ニ在リマスノデアリマスカラ、一層之ヲ活用シテ以上ノ趣旨達成ニ努力致シタイト存ジマス、第四ハ國民精神作興ノ爲、教化團體ヲ通ジ教化總動員行フノ

考ハナイカト云フ御質疑デゴザイマス、之ニ對シテ御答ヘ致シマス、此ノ際教化團體ヲ通ジ、教化總動員ノ如キ一大教化運動ヲ實施スルノ意思ナキカトノ御質問デアリマスガ國民各自ラシテ其ノ國民的職分ニ對スル自覺ヲ鞏固ニシ、之ヲ通ジテ御奉公申上ゲル信念ト實踐トノ力ヲ持タセルト云フコトハ極メテ肝要ナルコトト存ジマス、之ニ關シテハ其ノ方法等ニ付キ十分考究ヲ加ヘ、有效適切ナル措置ヲ講ジタイト存ジマシテ、目下折角研究中デゴザイマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 松井茂君

○松井茂君 チョット……

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 宜シウゴザイマス

(松井茂君演壇ニ登ル)
○松井茂君 只今、昨日ノ質問ニ付キマシテ、當該大臣ヨリ懇篤ナル御答ガゴザイマシテ誠ニ満足ヲ致シマス、先ヅ首相ノ御言葉ノ中ニ、私ノ最モ言ハムト欲シマシタ點ハ國家ト社會正義トノ關係デアッタノデアリマス、然ルニ昨日ノ施政ノ御方針ノ御演說ノ中ニ、大義名分ヲ明カニシテ、社會正義ニ即シ、各自ガ各、其ノ分ニ從テ努メネバナラナイト云フ仰セガゴザイマスルシ、又只今ハ 明治天皇ノ大御心ノ程ヲ御話ガゴザイマシテ、誠ニ私ハ満足致シテ居ルノデアリマス、此ノ事ハ昨日モ申上ゲマス通りニ、日本國民トシテハ餘リニ明瞭過ギル問題デゴザイマスルガ、何分ニモ思想ノ問題ガ混雜致シテ居リマスルノデ、ドウモ此ノ國體ニ即スト云フコトヲツイ間違フコトモアルト云フ老婆心カラ御質問ヲ申上ゲタ次第ナンデアリマス、國際正義ニ付キマシテモ、平和ト云フコトガ實ニ根本デアアル、

併シナガラ物ト人トノ關係ト云フ點ニ於テモ大ニ考慮シナケレバナラナイ、御尤ノコトト存ジマス、最後ニ私ガ質問致シマシタノハ、首相ニ御質問ヲ致シマシタノハ……
(議長伯爵松平賴壽君議長席ニ復ス)

○議長伯爵松平賴壽君議長席ニ復ス

此ノ精神作興ノ統一運動ニ付テデアッタノデアリマスガ、是ハ只今文部省ヲ代表シテノ御答モゴザイマシタカラ、是デ要領ヲ得タモノト致シタク存ジマス、次ニハ文部當局ヘ、御回答ニ付キマシテ一言申添ヘテ置カウト存ジマスガ、私ノ質問ノ要領ノ最モ骨子ハ、部落ニドウシテモ精神ヲ打込マナケレバナラナイト云フコトガ骨子デアッタノデアリマス、勿論内務省ニモ昔カラ部落有財産ヲ止メ、部落根性ト云フモノガ極ク良クナイコトデアアル、併シナガラ町村ト能ク連絡ヲ取りマシテ家庭的ニ部落ト云フモノガ良クナツタラバ必ズ成功スルノデアアル、是ハ私共ノ數年來殊ニ能ク町村ヲ廻ツタ實況カラ出タ體驗デアリマス、只今五人組ノ制度ノ復活ナドノ問題ノアリマスノモ、此ノ現ハレノ一ツデアリマス、又選舉肅正ニ部落懇談會ガ大變ニ效果ノアリマシタコトモ今更申上ゲル迄モナイノデアリマス、成ル程此ノ方面ニ付キマシテハ此ノ上ナガラ文部當局ニ於ケレマシテハ、十二分ニ御努力ノ程ヲ切望致スノデアリマス、其ノ他個人、家庭教化、町村ナドノ事ハ今更申上ゲル迄モゴザイマセス、尙最後ニ教化總動員ニ付テノ御答ガゴザイマシタガ、能ク御考慮アツテ然ルベキコトト存ジマスルガ、唯一言添ヘテ置キタイト存ジマスノハ、今地方デモ昨日モ申上ゲマシタガ地方長官ナドノ困ツテ居リマスノハ、此ノ精神作興ノ根本ノ統一ヲ缺イテ居ル點デアリマス、ドウカ

各省ト十分連絡提携ヲ御取リニナツテ、内務省カラモ來ルシ、又農林省カラハ經濟更生ヲヤツテ來ルシ、文部省デハ此ノ教化委員ト云フモノヲ置キ、又社會教化ノ方カラモヤツテ來ル、地方長官ハ奔命ニ疲レテ居ルノデアリマス、先ヅ以テ内閣ガ各省ノ統一ヲ、此ノ精神作興ニ付テ餘程能ク御實行ニナルコトガ今日ノ急務ト存ジマス、此ノ點ヲ重ネテ希望ヲ申上ゲテ置カウト存ジマス、次ニ只今内務大臣ヨリ段々御話ガゴザイマシタ、警察ノ問題ハキツイ御共鳴ニナリマシテ満足致シマスガ、斯ウ云フ時局デモゴザイマスルデ、何卒此ノ上ナガラウント力ヲ御添ヘテ願ヒタイノデアリマス、コンナコトヲ申上ゲルノハ如何カト存ジマスガ、支那ノ今日ノ問題ニ付キマシテハ蔣介石氏ガ我が國ノ事情ヲモット、御諒解ニナルコトヲ切ニ國家ノ爲ニ希望ニ堪ヘナイノデアリマス、此ノ問題ハ今日迄ノ經過トシテハ、頗ル支那ニ對シテ遺憾ニ思フノデアリマス、併シナガラ蔣介石氏ハ警察ノ問題ニ付キマシテハ餘程諒解ガアル、只今蔣介石氏ハ現在南京ノ中央警察學校長ヲ勤メテ居ルノデアリマス、現在……此ノ意氣ハ私ハ中華民國ノ爲ニ非常ニ心得ノ良イコトヲ喜ンデ居ルノデアリマス、ドウカ内務大臣ハ此ノ警察教育ト云フコトニ付キマシテハ、獨リ蔣介石氏バカリデヤゴザイマセス、私ハ我が國ヲ警察國家ニスルナント云フケチナ考ハ毛頭持チマセヌ、フツシヨ「ナチス」ノ眞似ヲシヨウトハ思ヒマセヌ、一君萬民ノ我が國體ニ於テ、一億萬國民ノ爲ノ警察官デアッテ、陛下ノ警察官デアアル、是ハ我々ノ向フベキ道ナンデアアル、國民生活ニ至大ノ關係ガアルノデアリマス、ドウカ此ノ上ナガ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、明日ノ議事日程ハ決定次第彙報ヲ
以テ御通知ニ及ビマス、明日ハ午前十時カ
ラ開會致シマス、本日は是ニテ散會致シマ
ス

午前十二時四十一分散會

ラ十二分ニ此ノ問題ヲ重要視サレムコトヲ
希望致シマス、又最後ノ國民防空ヲ國民消
防ト結び付ケル問題ハ、是亦御共鳴ヲ得マ
シテ満足致シマスガ、今ヤ二百萬ノ消防人
等ガ居リマシテ、一大勢力デアリマス、又貴
族院議員ヤ衆議院議員デ消防組頭ニナツテ
居ル御方モアルノデアリマス、此ノ二百萬
ヲ餘程善用ナサレテ、國民防空ト結び付ケ
ラレト云フコトハ、今日ノヤウナ時局ニ
於テ實ニ大切ナンデアリマスカラ、ドウカ
内務大臣ニ於カレマシテハ此ノ上ナガラ、
此ノ問題ニ付テモ十二分ニ御努力ノ程ヲ國
家ノ爲ニ御願ヒ致スノデアリマス、又大藏大
臣ニ於カセラレマシテハ、只今御懇篤ニ色々
ノ問題ニ付テ御示シガゴザイマシタ、國費
多端ノ今日デゴザイマスガ、併シドウカ
我々ノ微意ノアル所ヲ十二分ニ御諒承下サ
イマシテ、國家ノ爲斯ウ云フ方面ノコトヲ
財政ノ上カラ、平素ニ於テ十二分ニ御諒解
ノ程ヲ切ニ希望致ス次第デアリマス、之ヲ
以テ私ノ質問ヲ終ヘヨウト存ジマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御報告ヲ致シマ
ス、本日午前十一時、議長ハ議院ヲ代表致
シマシテ參内致シ、侍從長ヲ經テ天機ヲ奉
伺致シマシタ、此ノ段御報告ヲ申上げマス、
次ニ御諮リ致シタイノデゴザイマスルガ、
本會期中本會議ノ開會中ニ、委員會開會等
ノ要求ガゴザイマシタ場合ニハ、議事ニ差
支ノナイ限り、議長ニ於テ之ヲ許可スルニ
御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、本日ハ時間ノ都合ニ依リマシテ、
此ノ程度ニ於テ延會致シタイト存ジマス、
御異議ゴザイマセヌカ